

水落遺跡の調査

<調査歴>

第1次調査	1972年10月～12月	家屋新築の事前調査	正方形の貼石遺構・建物を発見
第2次調査	1981年9月～12月	史跡整備に伴う調査	礎石建物・水利用諸施設他検出
第3次調査	1982年10月～12月	同上	貼石遺構と礎石建物の再検出
第4次調査	1984年3月～4月	同上	建物地中梁、掘込地業南端確認
第5次調査	1985年2月～4月	同上	建物・木樋・銅管の北延長部検出
第6次調査	1986年2月	同上	南掘立柱塀検出
第7次調査	1994年8月～12月	周辺地の計画調査	建物群東南隅部、石組溝・暗渠検出

<検出した建物遺構>

礎石建物：四間四方。総柱様。柱凹座をもつ地下礎石24個。柱間2.737m。

貼石遺構（旧称石組溝）：内斜面、底面、外斜面とで構成される基壇化粧。

上辺16.4m、下辺22.5m、高さ1.2～1.6m。底面に水を溜めない構造。

掘立柱建物（北）：東西9間以上（12間か）。南北2間。

掘立柱建物（南）：東西10間。南北2間。

<木箱の大きさ>

建物地下の台石：南北2.2m、東西1.6m。厚さ0.6m。長方形凹座に木箱を据える。

凹座：南北長1.65m、東西幅0.85m、深さ4cm。推定基壇面下約1m。

大型木箱：凹座に内接。外面に塗った漆膜だけが残る。底板厚13cmの一枚板。

小型木箱：内法37cm四方。大型木箱北半に内接。この中心が建物中心に揃う。

<木樋・榦>

木樋A・B～E、G・H：内法幅25cm（外幅40cm）。傾斜20/1000～8/1000

木箱からの排水木樋（F）：内法幅40cm（外幅65cm）。傾斜56/1000

木樋Bに大銅管（外径3cm）を挿しこみ、基壇上の建物内部へ水を持ち上げる。

榦：台石の東。内部をくり抜いた角材。55×45cm、高さ40cm以上。

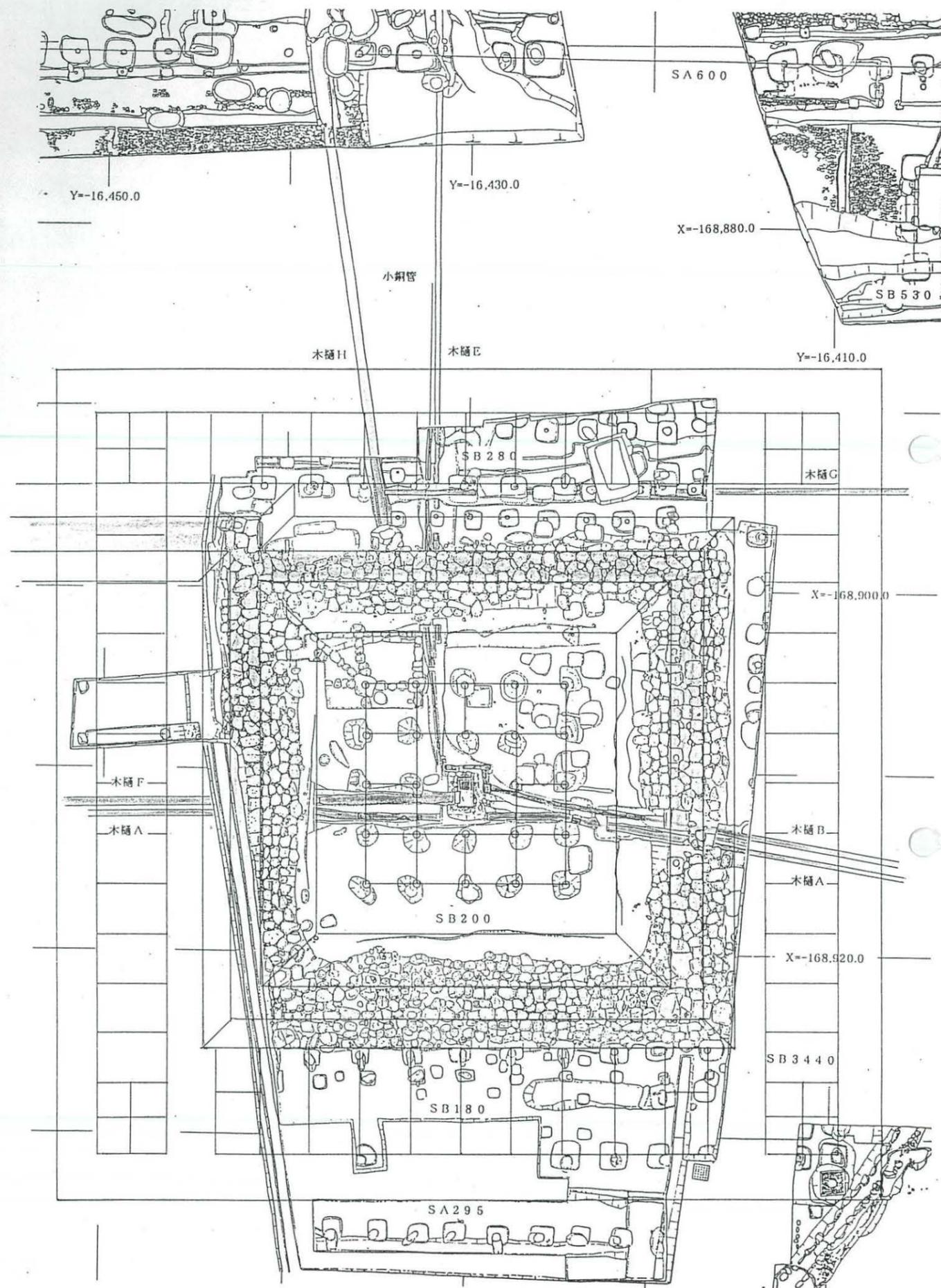
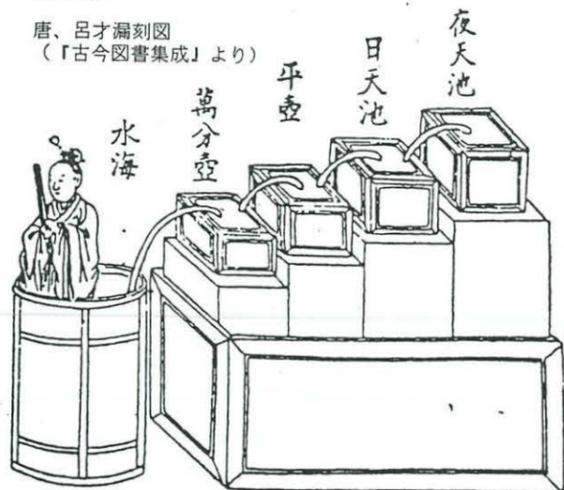
<小銅管>

木箱西基壇上から貼石遺構をくぐって北方へ延びる。貼石下までの傾斜50/1000。

外径1.2cm、長さ80cmの単位管を繋ぎ合わせ、漆と10cm角の木筒で覆う。

<特徴>

- ①遺跡全体が深さ3mほどの掘込地業で形成されている。
- ②礎石建物は堅固で高い建物である。
- ③基壇内に水を引き込み、建物内部へ持ち上げる装置がある。
- ④建物の中心にある小型黒漆塗木箱が、特別な機能の主役である。
- ⑤年代は出土土器から七世紀後半でも古い頃と推定できる。



水落遺跡第8次発掘調査概要

1995年8月26日
奈良国立文化財研究所
飛鳥藤原宮跡発掘調査部

調査期間：1995年7月3日～

調査面積：約465m²（南北15.5m、東西30m）

調査目的：昨年の第7次調査に続き、漏刻遺構東南部における、関連施設の検出と遺跡の範囲確認。

検出遺構：①7次調査検出遺構の延長部

・木樋暗渠 (SD3409・SD3370)	7世紀
・南北石組溝 (SD3400)	〃
・石敷 (SX3394)	〃
・南北素掘り溝 (SD3360)	平安時代
・〃 (SD3420)	〃

②新発見の遺構

・南側に石敷帯を伴う斜行石組溝 (溝内法0.7m、深さ0.15m、方位一北で約5度北偏、傾斜一約1度)	7世紀
・石敷 (敷石抜取穴)	7世紀
・池状遺構	7世紀
・土坑・土器埋納坑・掘立柱建物	平安時代

調査成果：①今回検出した斜行石組溝は、漏刻遺構及びそれを取り囲む建物よりも古い時期の南北石組溝 (SD3400) を壊して作られていることから、漏刻と関連もしくは同時期の可能性がある。平安時代の南北素掘り溝 (SD3420) は、南端部が土坑で壊されているが、斜行石組溝の南に延びないことから、斜行石組溝は平安時代にも水路として使用された可能性がある。

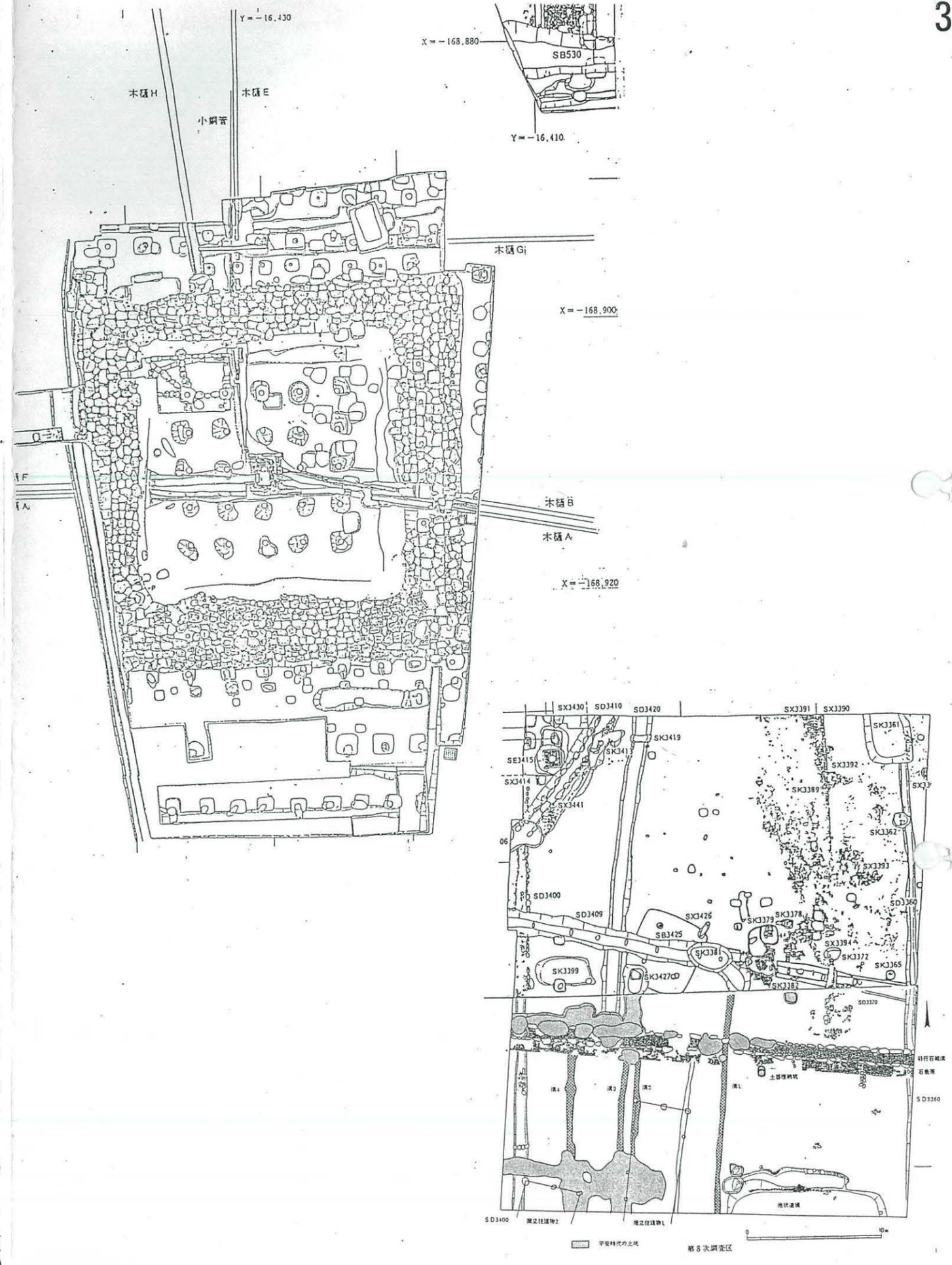
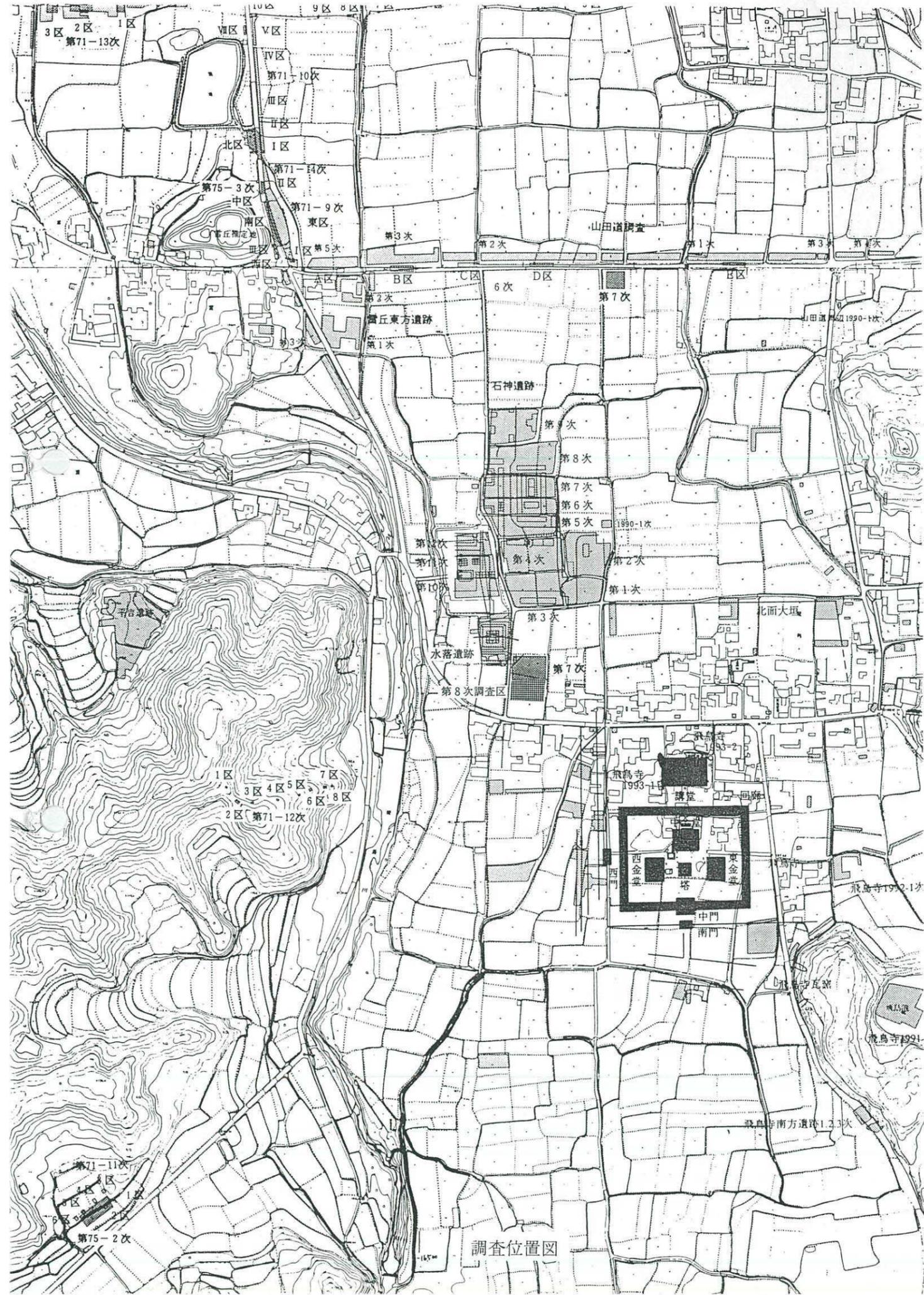
②石敷は、地勢及び敷石抜取穴の状況から、雛壇風に設置されていた可能性がある。

③池状遺構は発掘区の南に広がり、その性格付けについては来年度の調査に待たねばならないが、『日本書紀』の記事に見える須彌山の造営に係る施設の可能性も考慮する必要がある。

④今回の調査でも水落遺跡の南及び東を区画する施設は検出できず、遺跡は更に南・東に広がる。

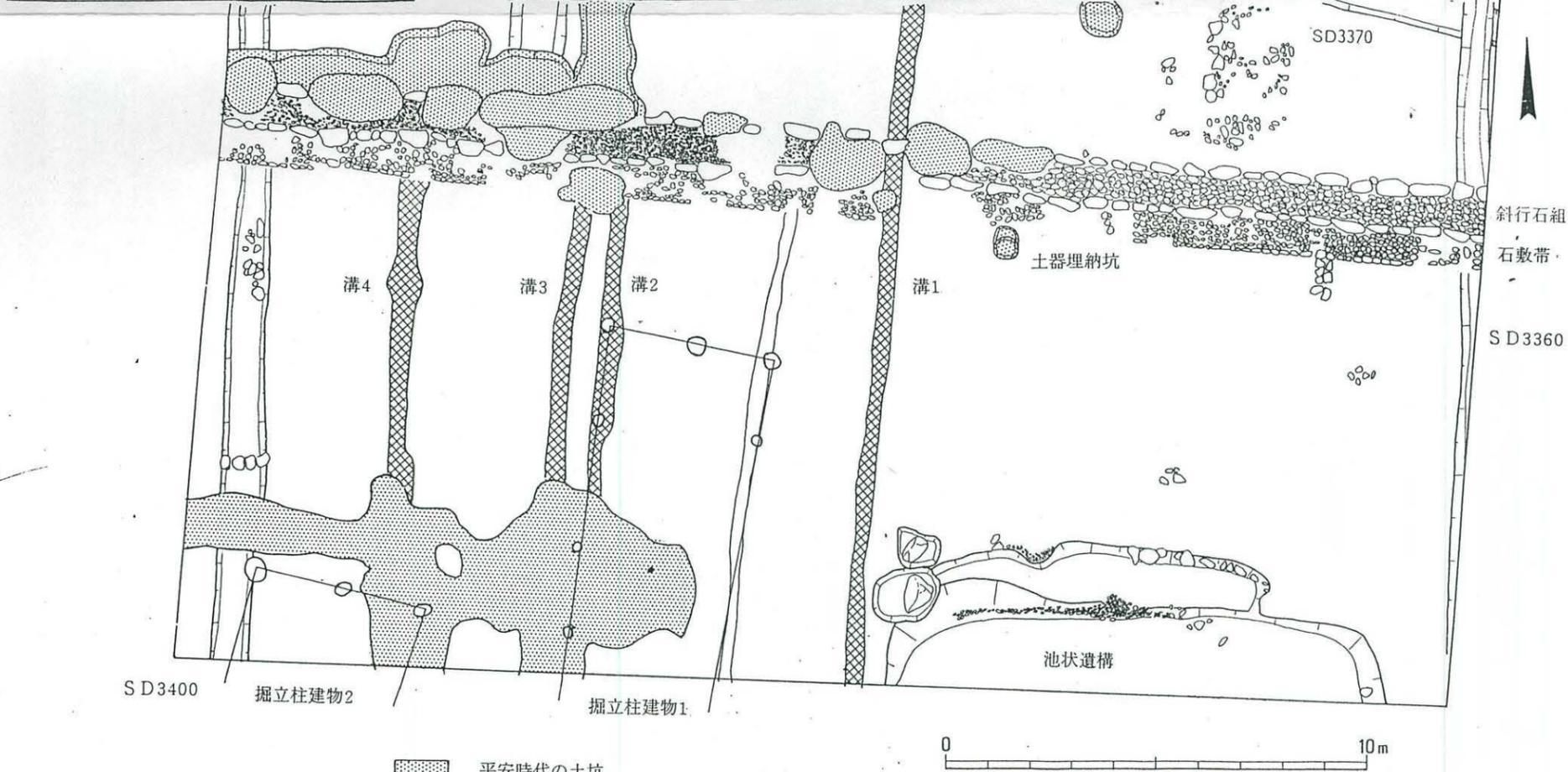
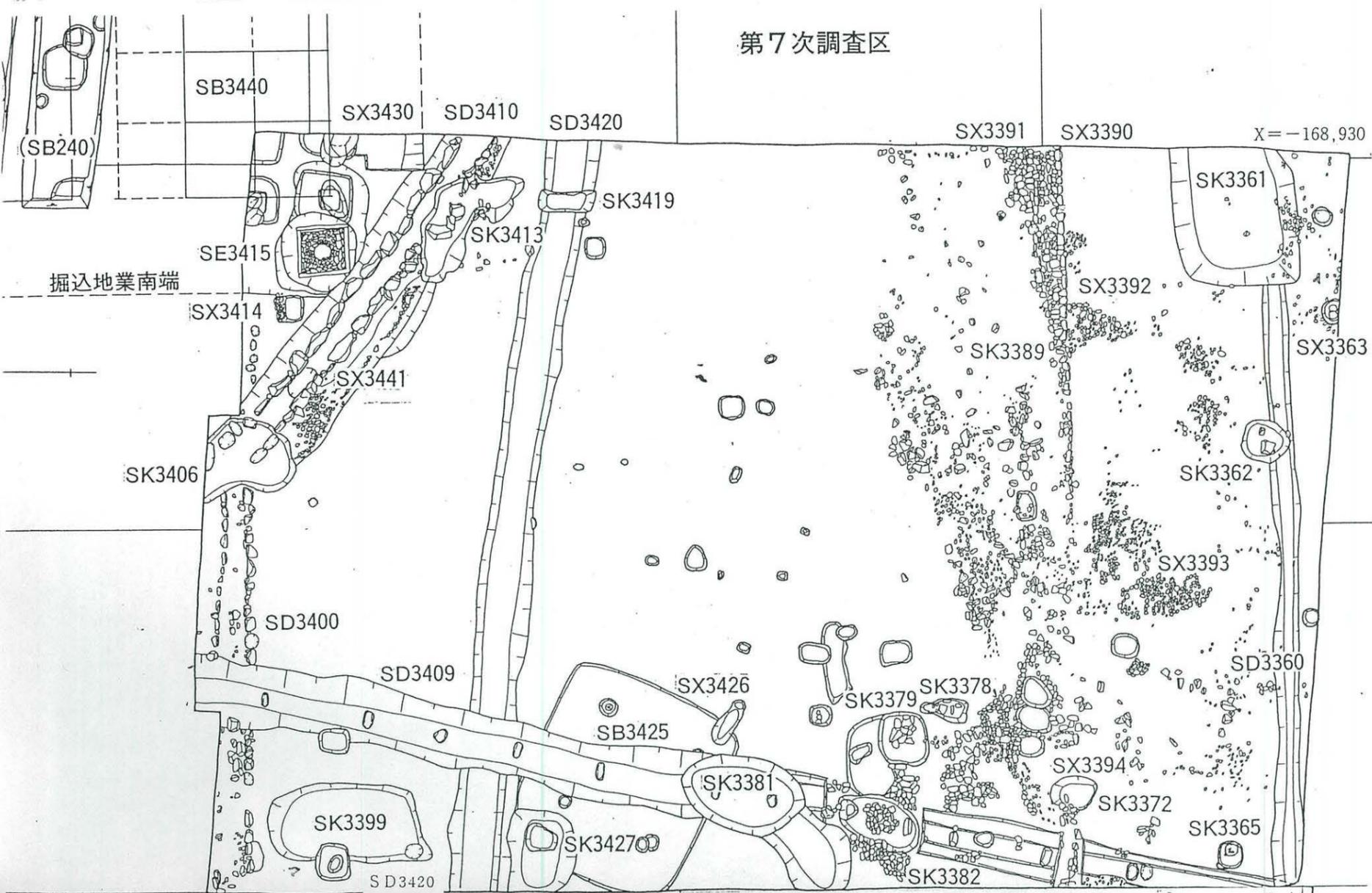
◎『日本書紀』に記された「飛鳥寺西の広場」・「須彌山像」

1. 皇極天皇3年(644)1月乙亥 法興寺槻之下の打毬の時、中大兄皇子・中臣鎌子が親交を結ぶ。
2. 大化1年(645)6月乙卯 乙巳の変の時、大槻樹之下で、天皇・皇祖母尊・皇太子・群臣ら天神地祇に誓盟す。
3. 齐明天皇3年(657)7月辛丑 飛鳥寺西の須彌山像を作り、旦に盂蘭盆会を行ない、暮に観貨羅を饗す。
4. 齐明天皇5年(659)3月甲午 甘藷丘東之川上に須彌山を造り、陸奥と越の蝦夷を饗す。
5. 齐明天皇6年(660)5月 中大兄皇子が初めて漏刻を造る。石上池辺に須彌山を作り、肅慎47人を饗す。
6. 天武天皇1年(672)6月己丑 壬申の乱の時、飛鳥寺西槻下に近江朝方が軍営を造る。近江朝方の興兵使穂積百足が、飛鳥寺西槻下に斬殺される。
7. 天武天皇6年(677)2月 飛鳥寺西槻下で多禰島人を饗す。
8. 天武天皇9年(680)7月甲戌 飛鳥寺西槻枝、自ずから折れて落つ。
9. 天武天皇10年(681)9月庚戌 飛鳥寺西河辺に多禰島人らを饗す。種々楽を奏す。
10. 天武天皇11年(692)7月戊午 飛鳥寺之西に隼人らを饗す。種々楽を發す。禄を賜う。道俗悉くこれを見る。
11. 持統天皇2年(688)12月丙申 飛鳥寺西槻下に蝦夷男女213人を饗す。
12. 持統天皇9年(695)5月丁卯 西槻下に隼人の相撲を見る。



水落遺跡遺構図

第7次調査区



平安時代の土坑

第8次調査区



水落遺跡第7・8次調査遺構配置図